

# 地域おこし

## ～合志市黒石原コミュニティセンターの取り組みと課題解決～

熊本県立熊本北高等学校  
URⅡ 社会科学講座 3班

### 仮説

公民館は気軽に人々が集まることができ、地域の中心的な役割を担っていて地域づくりに貢献していると考えられる

### 結論

公民館という場所があることで地域の方が集まり、活動することで元気な地域作りができています

## 1 はじめに

少子高齢化や過疎化がなぜいけないのか、また地域を活性化するためにできることはないかを考えた。

現在、地方から都心部へ移動する人が多く、地域の過疎化が問題となっている。しかし、熊本県合志市では児童の増加に伴い新しい学校の建設など住みやすいまちづくりがされている。

地域住民がこれからも地域にいたいと思えるように、誰もが安心して生活できる今ある魅力を生かしたまちづくりを提案したいと考えた。そして身近な場所、自分たちの地元でフォーカスして地域のイベントやお祭り等にボランティアとして参加する。そこから、高校生ならではの視点、行動での新しい発見や解決策が見いだせれば良いと思い、調査・研究を実施した。

## 2 調査方法

### 黒石原コミュニティセンター(公民館)を訪問してインタビュー

- (1) 公民館を訪問し、高齢者の方にインタビューを行う
- (2) 公民館を使用している子供たちにインタビューを行う

## 3 調査結果

(1) 毎週木曜日に行われている高齢者を対象としたサロンでは体操やeスポーツによる近所の方との交流で認知症などの病気の予防、孤立対策となり支え合い、誰もが安心して生活を送れることを目的としている。

(2) 10月から新しく始め小学生を対象としたキッズサロンでは、学校に行けない子供や学校帰りの子供が高齢者のボランティアと一緒に勉強をしたり遊んだり、と交流する場所をつくった。

(調査のまとめ)

合志市黒石原地区の公民館では社会福祉協議会や黒石原区からの助成金が十分にでているため公民館の活動の幅も広がっている。

熊本地震の際、黒石原地区に住む人たちがお米などの食料を持ち寄り、公民館で炊き出しを行うことができたのは地域の一体化が進んでいたことが要因の一つであるといえる。公民館の発展が地域内での助け合いの気持ちを強くさせた。

## 4 考察

高齢者の方のインタビューにより、合志市黒石原地区の公民館では普段の活動や災害時の炊き出しなど他の地区より活発に活動しており、公民館が地域の一体化を担う役割をしているのではないかと考えた。

また、公民館の活動をもっと多くの人を知ることで、ボランティアや参加者の増加と公民館の活動の継続を目指すことは重要であると考えた。

## 5 今後の課題・展望

公民館でボランティアとして活動されている方の高齢化が進んでおり、他の地区の公民館ではサロンがなくなった場所もあるため運営のボランティアを増やさなければならない。また、合志市の高齢化率が増加しているのにも関わらず、新しいサロンの参加者が増えていない。特に、男性のサロンの参加者が減少している。子どもたちに昔ながらの遊び(竹とんぼなど)を広めていくことも地域おこしに繋がる。公民館の活動をもっと多くの人に知ってもらい、地域全体で年代を混ぜた交流が増えることが今後の課題として挙げられる。

今後は、インタビューをもとに解決策を考え、地域活性化に向けた具体的な方策を実行していきたい。

## 6 参考文献

【本】・木下斉『福岡市が地方最強の都市になった理由』

出版社:PHP研究所

出版日:2018年2月18日

総ページ:302ページ

・新田時也『くまもと地域づくり』

出版社:熊本日日新聞社

出版日:2016年9月10日

総ページ:128ページ

### 【インターネット】

著者名:(中央区役所中央区まちづくりセンター)

吉坂敬子 (市民局地域政策課) 吉永憲生

(中央区役所総務企画課) 松田恵

ページ名:早稲田大学マニフェスト研究所

サイト名:それぞれが思う幸せのかたち『”できたらいいな”ができる”まち』

入手先URL

[http://www.maniken.jp/jinzai/wp/wp-content/uploads/2019/03/096\\_kumamotoshi.pdf](http://www.maniken.jp/jinzai/wp/wp-content/uploads/2019/03/096_kumamotoshi.pdf)